電子ペーパーコンソーシアム事務局

# 「第 11 回電子ペーパーシンポジウム」開催報告

電子ペーパーコンソーシアムでは、例年シンポジウムを開催して調査研究の成果をご報告しています。このたび、通算第 11 回目となるシンポジウムを平成 27 年 2 月 20 日（金）に日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホールにおいて開催しました。今回は「電子ペーパーを読む～技術及びビジネス～」と題して、電子ペーパーのオフィスでの活用における実証実験報告や読書時の眼球運動解析などの講演および実機によるデモ等を行い、75 名の方にご来場いただきました。

電子ペーパーコンソーシアム委員長の面谷 信氏の開会挨拶に続き、各調査研究グループからの活動報告が行われました。

RG1(*1)からは、「電子ペーパーのオフィスでの活用」と題して、電子ペーパーコンソーシアム RG1 主査の小林 英夫氏から活動報告が行われました。電子ペーパーのオフィスでの効用及び活用場面を確認するため、効用検証実験を実施したことが報告されました。

RG4(*2)からは、「電子ペーパーの国際標準化」と題して、電子ペーパーコンソーシアムＲＧ4 主査の高橋 達見氏から 2012 年から 3 年間受託した経済産業省からの委託事業である「ＪＢＭＩＡ電子ペーパー国際標準化提案委員会」の成果が報告されました。また、DODP（Digital Office Document Paper）について、「事業化検討の進捗」と題して主な仕様やビジネスモデルなど基本コンセプトが報告されました。

【 (*1), (*2)：最終ページをご参照ください。】

RG1 小林主査活動報告

RG4 高橋主査活動報告

各調査研究グループからの活動報告に続いて、招待講演が行われました。

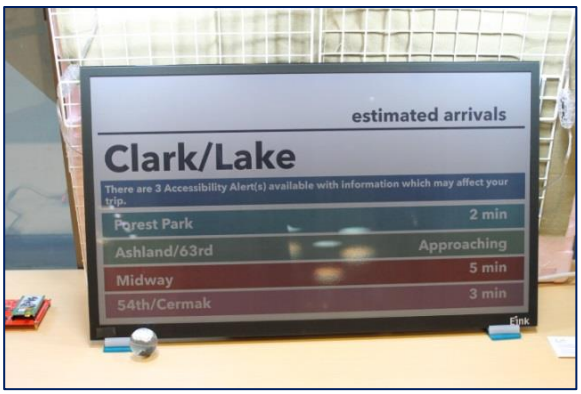
最初に E Ink Japan Inc. 橋本 圭介氏から、「電気泳動方式の発展と技術／ビジネス展望」と題して、E Ink 社と電子ペーパービジネスの歴史、合わせて今後の方向についてご紹介いただきました。

続いて、富士ゼロックス(株) 高野 健太郎氏から、「読みの支援環境」と題して読みの中でも「アクティブリーディング（教育や業務での読み）」に焦点を置いて、読みを支援する情報メディアの歴史やシステムの研究例のご紹介をいただきました。

E Ink Japan Inc.　橋本 圭介氏講演

富士ゼロックス(株) 高野 健太郎氏講演

休憩時間には、E Ink 社の 3 色大画面ディスプレイ、綜研化学(株) の大画面ツイストボール、SONY(株) のデジタルペーパー実機デモをロビーで行い、多くの来場者が参加しました。




デモ展示の様子

招待講演の後半は、最初に東海大学　山田 光穂氏から「読書時の眼球運動解析」と題して、電子書籍と紙書籍の眼球運動の比較や改ページ時に注目した眼球運動の比較等について研究結果が報告されました。

招待講演の最後は、専修大学　植村 八潮氏から、「“電子書籍”の終焉ーデジタル文字のプラットフォームとは何か」と題して、電子書籍の歴史や紙と電子書籍市場の比較等からデジタル文字の今後について研究結果が報告されました。

東海大学 山田 光穂氏講演

専修大学 植村 八潮氏講演

続いて全講演者に登壇いただき、来場者との質疑応答・自由討論が行われました。電子ペーパーの現状と未来を展望する議論が展開され、来場者からも活発な質問が相次ぎ、会場は熱気につつまれました。

質疑応答・自由討論の様子

最後に、高橋副委員長の閉会挨拶をもって、シンポジウムは大盛況のうちに終了いたしました。

～プログラム～

| |
|---|
| **＊開会挨拶　（13:00-13:05）**<br>面谷 信　（電子ペーパーコンソーシアム委員長／東海大学　光・画像工学科　教授） |
| **【電子ペーパーコンソーシアム活動報告】** |
| **（１）RG1 活動報告：「電子ペーパーのオフィスでの活用」（13:05－13:20）**<br>（小林 英夫：電子ペーパーコンソーシアムＲＧ１主査／富士ゼロックス㈱） |
| **（２）RG4 活動報告：「電子ペーパーの国際標準化」（13:20－13:35）**<br>（高橋 達見：電子ペーパーコンソーシアムＲＧ４主査／大日本印刷㈱） |
| **（３）DODP（Digital Office Document Paper）会議活動報告：**<br>**「事業化検討の進捗」（13:35－13:50）**<br>（高橋 達見：電子ペーパーコンソーシアム DODP 会議主査／大日本印刷㈱） |
| **【招待講演】** |
| **（４）「電気泳動方式の発展と技術／ビジネス展望」（13:50－14:20）**<br>（橋本 圭介：E Ink Japan Inc.） |
| **（５）「読みの支援環境」（14:20－14:50）**<br>（高野 健太郎：富士ゼロックス㈱） |
| **休憩／デモ展示（14:50－15:20）**<br>**E Ink「3 色、大画面」、綜研化学「大画面ツイストボール」、ソニー「デジタルペーパー」** |
| **（６）「読書時の眼球運動解析」（15:20－15:50）**<br>（山田 光穂：東海大学　情報通信学部情報メディア学科　教授） |
| **（７）「“電子書籍”の終焉－デジタル文字のプラットフォームとは何か」（15:50－16:30）**<br>（植村 八潮：専修大学　文学部人文・ジャーナリズム学科 教授） |
| **（８）全講演者への質疑応答・自由討論（16:30－16:55）** |
| **＊閉会挨拶（16:55－17:00）**　高橋 達見：（電子ペーパーコンソーシアム副委員長） |

■電子ペーパーコンソーシアムについて

１．経緯

2003 年に、前身である「電子ペーパー懇談会」が発足しました。JBMIA は、タイプライタ、ワープロ、複写機、プリンタといった紙ドキュメント関連の機器との関わりが深いことから、「電子ペーパー」の電子表示媒体としての可能性と特性に着目し、調査・研究を進めていこうということになりました。当初、研究しようとしたことは以下のようなものでした。

- 何故、紙がドキュメントメディアとして強いのか、紙の特長、強みを研究する。
- その上で、電子ペーパーが持っている今までのメディアに代わる強みと特長は何かを追究する。
- そして、電子ペーパーはどのような場面で活用されるのか、その普及シーンを想定する。
- ユーザーのニーズは何か？電子ペーパーに対して持つイメージと期待はどんなところにあるのかを調査する。
- さらに、電子ペーパーのあるべき姿と形、機能、ユーザーの使い勝手を研究する。
- 問題点や課題を把握し、ビジネスモデルを構築し、市場での実証を行う。

この懇談会は、2006 年に「電子ペーパーコンソーシアム」に名称が変わり、引き続いて、研究・調査を進めています。2006 年以降、「新しいメディアとしての可能性」についての探索的な議論が活発になりました。

現在、コンソーシアムはハブとなって、技術・ビジネスの両面からのアプローチを積極的に進めています。

２．組織　(2015 年 2 月時点)

二つの Research Group(検討グループ)で具体的な研究・検討を行っています。

電子ペーパーコンソーシアム

委員長：面谷 信（東海大学)

副委員長：高橋 達見（大日本印刷(株))

RG1 (Research Group 1)

主査：小林 英夫（富士ゼロックス(株))

・技術動向・市場動向調査

・実証実験の企画立案と実行・分析

RG4 (Research Group 4)

主査：高橋 達見（大日本印刷(株))

・電子ペーパーに関わる国際標準化の動向調査

・IEC/ISO への標準化原案の検討･作成･提案

以上